東大阪

発行所
株式会社 東大阪新聞社
第6991号
〒577-0802
東大阪市小阪本町 1-1-7
エフエスビル２Ｆ
TEL 06-6720-4601
FAX 06-6720-4603

八尾柏原支社
〒581-0013
八尾市山本町南 6-2-29
TEL 072-926-5134
FAX 072-921-6893

東大阪・八尾
柏原の地域紙
購読ご希望の方はお気軽にお電話下さい

コロナ禍 医療最前線に 愛のプレゼント

防護服を健康部に仲介寄贈する野田しょう子市議（左）

「石切もちどら」を寄贈する青谷展行社長（右）

親日国の台湾から愛のプレゼントが到着した。

野田しょう子東大阪市議（63）と昵懇である台北駐大阪経済文化弁事処の李世丙処長より、東大阪市健康部（島岡正之部長）に対して医療現場用防護服200枚が寄贈された。野田市議が仲介の労をとり、5月11日に近鉄若江岩田駅前の希来里3階健康部フロアで寄贈式が行われた。

◇　◇

同じく5月11日、西石切町の有名菓子店シェ・アオタニの青谷展行社長より、市立東大阪医療センター（谷口和博理事長）にシェ・アオタニの人気商品「石切もちどら」の160個が、同じく野田市議の仲介で最前線の医療関係者に感謝の気持ちを込めて贈られた。

西洋浪漫菓子　シェ・アオタニ
社長　青谷展行
東大阪市西石切町1－5－37
TEL 072－982－7546

コロナ禍のなか　16小節でHAPPYプロジェクト配信

ジャズボーカリスト 川畑奈留美さん

非常事態宣言下の約2カ月、音楽家が苦境に立たされた。3密を避けるため、ライブやコンサートが開けず、演奏する場を失った。今も続く。ユーチューブやフェイスブック、あるいはショールームなど、インターネットを使ったオンライン配信を始めるミュージシャンが続出している。

関西を中心に活躍する八尾市在住のジャズボーカリスト川畑奈留美さん（44）＝写真＝を5月21日にビデオ通話でインタビューした。

――最後にライブをしたのはいつですか。

「3月29日です。ジャズバーからホールまでいろいろなところで歌っているのですが、3月に入ると、主催者からライブ中止の連絡がちらほら入るようになりました。3月後半になると、ライブを開催しても、集客が難しい状況に」

――4月にもライブの予定は入っていましたか。

「4月は13本入っていましたが、すべてキャンセルとなりました。3月30日のニュースで、タレントの志村けんさんが新型コロナウイルス感染で亡くなったことを知り、一気に身近に感じ、ライブができないのは仕方ないと諦めました」

――ライブができないなか、不安はありませんか。

「出口が見えないので、テンションが上がらず、不安が募ります。いざ、ライブが始まったとき、舞台でしっかりパフォーマンスができるのだろうか、セッションができるのだろうかと…」

――新しいチャレンジは何かされていますか。

「16小節でHAPPYプロジェクトを4組のアーティストと立ち上げ配信しています。16小節という限られた長さの中で、今一番伝えたいことを歌にするというものです。同じメロディー、同じテンポで心を合わせて一つの音楽を作り上げ、多くの人を勇気付けようという試みです」

――適切な質問ではないかもしれませんが、コロナ禍でいいことはありましたか。

「家にいてゆっくりしていると、ゆとりのある生活って大切だと気付かされました。家族との時間を持てる幸せを改めて感じています。家族で食卓を囲むことはとても大切ですね」

川畑奈留美さんの笑顔が、スマートフォンの画面いっぱいに広がった。コロナ禍のなか、家族の愛情に包まれながら新しい可能性を探っている彼女は、人としてもボーカリストとしても一皮むけたのは間違いない。画面を通してひしひしと記者に伝わってきた。ライブの再開が楽しみだ。

好評放映中　毎週木曜日19:00～19:30　6月
視聴は http://www.higashiosaka-n.com
東大阪新聞チャンネル

4日　ゲスト：クラウン・ピエコロさん
「愛は地球を救う」
（キャスター：小川秀人遊軍記者）
11日　ゲスト：芦田衛さん、中村滋さん
「台湾とのサッカー交流」
（キャスター：小野元裕社長）
18日　話題の本＝パオロ・ジョルダーノ著
「コロナの時代の僕ら」
（キャスター：小野元裕社長）
25日　ゲスト：岩水健二さん
「頼まれたら、何でも作ります」
（キャスター：小川秀人遊軍記者）

全国の医療機関で不足している フェイスシールド 八尾市内の３社が寄贈

左から高田弘之さん、大松桂右八尾市長、樋口一幸さん、松阪卓也さん、江見昌久社長

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、フェイスシールドをはじめとする防護具が全国の医療機関で不足している。

このような状況を自社の持つ技術やつながりを生かしてどうにか改善しようと、八尾市内の企業3社（江見印刷紙工株式会社、テクノグローバル株式会社、株式会社アドバンス）がフェイスシールド計420枚を八尾市立病院に寄贈した。

いずれの企業もこれまでフェイスシールドを製造したことがない。本業を行いつつ、公開されている情報などをもとに試行錯誤を繰り返し製造した。従業員が一丸となりパートナー企業からの協力も得つつ、このような状況において「自分の会社でできることは何か」「最前線で活動されている医療関係者のために早く届けたい」など、様々な思いをもって作った。

◆江見印刷紙工株式会社（江見昌久社長、八尾市若林町2－112）

主にお菓子、お弁当箱などの紙器の企画・設計から発送までを一貫して行う会社。近隣の企業の協力も得て制作。100枚寄贈。

◆テクノグローバル株式会社（高田弘之社長、八尾市跡部南の町1－1－37）

樹脂製品の開発設計の段階から顧客に関与し、金型の製造、樹脂製品の製造・組み立て、評価までを行う会社。300枚寄贈。

◆株式会社アドバンス（樋口一幸統括マネージャー・松阪卓也3Dプリンター活用アドバンスインフィニティ、八尾市東本町3－9－19）

特定障害福祉サービス多機能型事業所（アドバンスドリーム）、就労継続支援A型（アドバンスウイング）、就労継続支援B型（アドバンスインフィニティ）があり、就労継続支援B型（アドバンスインフィニティ）において3Dプリンターを活用したフェイスシールドを作成。20枚寄贈。

イタリア人作家パオロ・ジョルダーノさん「コロナの時代の僕ら」早川書房から緊急出版

A５判 129 頁上製本
定価 1,430 円（税込み）

イタリア人作家パオロ・ジョルダーノさん（37）がつづったエッセイ集「コロナの時代の僕ら」（早川書房）が4月25日に緊急出版された。日本だけでなく、世界27カ国で刊行。

訳者の飯田亮介さんが緊急出版の理由を電子メールで聞くと「感染が広がり混乱した人々を鎮めたかったのが一つ。もう一つは、疫病と地球環境の関係など、僕が考えたことを多くの人に伝え、今後も議論を続けてほしいと思ったからです」という答えが返ってきた（毎日新聞4月13日付）。

邦訳の書名は、ガルシア・マルケスの「コレラの時代の愛」にちなんで付けられた。

「COVID－19とともに起きているようなことは、今後もますます頻繁に発生するだろう。なぜなら新型ウイルスの流行はひとつの症状に過ぎず、本当の感染は地球全体の生態系のレベルで起きているからだ」という著者の訴えかけは読者の心を揺さぶる。

素粒子物理学者というもうひとつの顔を持つ著者が、外出制限下で書き下ろした本書を読むことは、ポスト・コロナの世界での生き方を考える上で大きな糧となる。

町工場を訪ねて⑮

大和発条株式会社

バネ作り一筋、85年の歴史

川口亮社長

バネまたは発条、スプリングと呼称するが、弾性を利用してエネルギーを吸収または蓄積する機械要素を指す。コイルバネ・線バネ・渦巻きバネ・板バネ・重ね板バネ等々、用途に応じて様々な種類のバネがある。

大和発条株式会社は昭和10年3月に初代の川口泰一さんが創業、昭和33年4月に法人化し、85年の歴史をもつ。

2代目社長は現会長の川口淳三さん（86）、現在は2019年12月に3代目社長に就任したばかりの川口亮さん（44）が経営の先頭に立つ。川口社長は、東大阪ロータリークラブの推薦によりカナダ・キングストン高校に1991年～1995年の間、語学留学した経験がある。帰国後1996年に関西学院大学文学部に進学する。2000年に卒業後、大和発条株式会社に入社した。

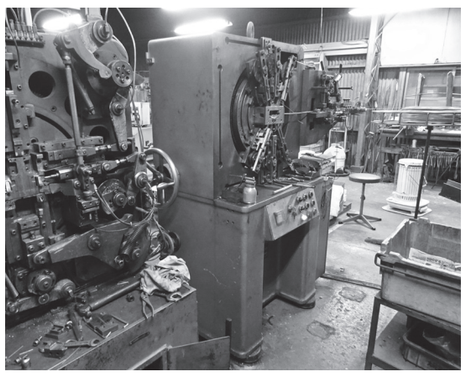
同社の主力商品は、線バネ・コイルバネ・板バネ・細工バネ・自動車用スプリング・オイルシール用スプリングだ。バネの材質は、バネ鋼（SWB）・ステンレス（SUS）が主であり、線バネの直径は1～2㎜、コイルバネは直径1・6～8㎜、自動車関係は1・2～2㎜、原子力関係は直径8㎜を使用している。

社員は10人、そのうち5人が職人だ。

信条を聞くと、「社員の幸せと社会貢献」。仕事のやり甲斐は「産業に貢献できること」。

大和発条株式会社の会社方針は「すべての顧客に信頼されるモノづくりを目指し、夢の実現に貢献」とあるが、あえて川口社長に近未来の夢を聞くと、「自社商品を開発したい。具体的にはキッチン用品や釣り道具をイメージしている」と話した。

様々な経験をバネにして次のステージに進む。もちろん現在の仕事を大事にしなければならないことは言うまでもないが、蓄積した自社の技術力を活かし、受け身体質を脱却して夢の実現を目指して欲しい。（小川秀人）


創業時から大切に使われている機械

大和発条株式会社
社長　川口亮
東大阪市高井田13-25
TEL 06-6788-5454

晴耕雨読

コロナが促す新しい社会

手放しで喜べない。緊急事態宣言は全面解除となったが、国の専門家会議は再び新型コロナウイルス感染が拡大しないように、また、長丁場に備えて「新しい生活様式」を提示した。4月7日から耐えてきた。だからこそ、第2波警戒のため「勝って兜の緒を締めよ」だ。

新しい社会や生活のけん引役は「リモート」。外出自粛で一気に広がったのが在宅勤務、オンライン会議、オンライン授業、オンライン飲み会など。新しいハラスメントが起きている。在宅勤務では「監視されているよう」だという。「脱」時間管理で成果主義やジョブ型採用のほかに「週休3日制」企業も現れた。9月入学制度導入や通年採用などが社会を変えていく。サラリーマンは「個人事業主」（親方）に転身する好機でもある。今年の株主総会は来場自粛でインターネット総会だ。リモートが社会や働き方を変える。

経済活動も徐々に拡大し、電機業界などでは「原則」在宅勤務を緩め段階的に緩和し、出勤を認め始めた。ターミナルの商業施設や繁華街にも賑わいが戻ってきた。アクリル板仕切り、フェイスシールドなどで新装再開だ。日銀は中小企業の倒産回避策として30兆円の融資枠を決めた。市中金融機関を通じての融資拡大を注視したい。「新しい社会」の芽生えを後押しする。

カミュの小説「ペスト」（新潮文庫）のラスト（ペストをコロナに替えて）は記憶しておきたい。「ペスト菌は決して死ぬことも消滅することもないものであり、数十年の間、家具や下着類のなかに眠りつつ生存することができ、（中略）ペストが再びその鼠ども（ねずみ）を呼びさまし、どこかの幸福な都市に彼らを死なせに差し向ける日が来るであろうということを」。

2020・6・1

募集
電気主任技術者　電験3種取得者
大阪電気保安協同組合
八尾市太田3丁目217－11
TEL072－949－3125

明るい・楽しい・アットホームな教習所
運転免許取るならYAOKYOで！
八尾自動車教習所
八尾市高安町南七丁目二十一番地
☎(072)999－1234
HP：http://www.yaokyo.net/

お湯のいらない足湯　ゆっ太郎
持ち運びができて収納もコンパクト
株式会社 藤原電子工業
http://www.fdk-ltd.jp/
〒581-0042
八尾市南木の本二－一五－一
TEL（〇七二）九九一－三九二七
FAX（〇七二）九九一－三九六六
fujiwara-denshi@nyc.odn.ne.jp

ウエス販売
≪商品紹介≫
～色メリヤスウエス～（1kg￥350）
～混合ウエス～（1Kg￥200）
～タオルウエス～（1kg￥400）
～白メリヤスウエス～（1Kg￥500）
☆不用になった中古衣料やタオルから、ウエスに適した原料だけを選別加工し商品として仕上げました。障がいを持つ利用者が手作業で丁寧に裁断し、梱包をしています。地球に優しく、皆様に愛される商品を目指しています。
社会福祉法人ヤンググリーン
障害ワークセンターwill
〒577－0023 東大阪市荒本1－4－32
TEL：06－6789－6171
FAX：06－6789－6172

えぇっ!?
環境活動して会社の業績UP??
ほんまかいな～
……もっちょい詳しく TEL：072-991-8878
O-KES
特定非営利活動法人 グラウンドワーク八尾 大阪KES環境機構（O-KES）
詳しくはこちら→ http://www.gw-yao.com

自分史・社史出版のお手伝い
記憶は一代、記録は末代
地元八尾の出版社だからこそできるきめ細かな本作り
著者と編集者が二人三脚で本作り
株式会社ドニエプル出版
TEL.072-926-5134
八尾市山本町南6-2-29
FAX.072-921-6893

大雨　洪水　津波　台風
こんな時の必需品
災害時対応の「人引車」

立命館大学 DMUCH 歴史都市防災研究所との共同開発！
一般社団法人災害避難研究所
マツモラ産業株式会社
共同開発
監修（一社）災害避難研究所
企画開発 大興産業株式会社
製造 マツモラ産業株式会社
TEL 072-925-3450
大阪の元気！ものづくり企業

津波緊急時高台避難鎖階段
逃げるんだ・登るんだ

簡単に設置できる、避難はしごの決定版

ホークライトゼット
大陽光パネルで毎月のコスト0円

八尾柏原版
八尾柏原支社
八尾市山本町南６－２－29
TEL 072－926－5134
FAX 072－921－6893

新型コロナウイルス早期終息祈願ロウソク
非常事態宣言解除まで火を灯す
三野郷山・三寶興誠院

8.3mの観音像

真っ赤なロウソク

8・3メートルの観音像で有名な三野郷山・三寶興誠院（八尾市福万寺町南6－2－3）では非常事態宣言発令後、4月11日から新型コロナウイルス早期終息祈願のロウソクを灯し続けた。長さ21センチメートル、直径5・5センチメートルの真っ赤なロウソクは約2日間もつ。消えそうになると、次のロウソクに火を付ける。その連続で火は絶えることなく、非常事態宣言が解除されるまで灯し続けられた。

松茂良興真住職（80）は「1日も早い終息を願い、ロウソクを灯し続けました」と話す。ロウソク置きの下には書棚があり、松茂良住職が書いた書籍「らしく生きる」「人は一生をどのように生きたらいいのか」（いずれもドニエプル出版）等が置かれており、無償で贈呈している。

新型コロナウイルス感染拡大防止啓発
FMちゃおが広報テープを八尾市に寄贈

八尾市のコミュニティFMラジオ局「FMちゃお」（根木幸男社長）では、新型コロナウイルス感染拡大防止の市民広報向けに、八尾市のパッカー車（ごみ収集車）や八尾市公用車、地域の巡回用青パトなどで放送できる「広報テープ（MP3データ）」を、自社のアナウンサーを使って録音・制作し八尾市に寄贈した。

八尾市の公用車や地域の青パトは、さまざまな用途で広報活動ができるよう、車両屋根にスピーカーを搭載している。選挙実施時の投票啓発や台風などの避難案内に使用。FMちゃおが八尾市から案内ステープ制作を受け作っている。

FMちゃおは緊急事態宣言直後より通常番組を休止し、特別番組編成で八尾市の地域情報を放送している。「甚大な地域災害」として捉え、FMちゃおは案内テープの無償作成・寄贈を八尾市に提案し、地域の啓発活動に使用されることとなった。情報が更新される都度、新しく録音・制作を行っており、これまで、4回にわたり提供。

自治体などからの情報は、近年SNSやホームページなど、デジタル情報が注目されがちだ。パソコンやスマートフォンなどが苦手な市民には、市内巡回公用車でのアナウンス、八尾市広報紙（紙媒体）やFMちゃお（ラジオ）などでの情報発信が喜ばれている。

みんな大好き金平糖（こんぺいとう）
16世紀、ポルトガルから渡来

「南蛮人」に扮する野村しおり社長

ポルトガルの宣教師が16世紀に金平糖を日本に持ち込み、織田信長に南蛮渡来のお菓子として献上され、信長がこれをいたく気に入ったと伝えられている。

江戸時代には国内で作られるようになったが、職人が小鍋で10日間かけて原料を煎り続け、やっと1kgほどの金平糖を完成してお殿様に献上したそうだ。

大阪糖菓株式会社（八尾市若林町2－88、☎072－948－1338）は老舗の金平糖メーカーであり、昭和15年5月に初代社長・野村三男さんが大阪市西区で菓子問屋を開業し、終戦後に流行っていた金平糖を作り始めた。昭和27年に法人化し、昭和55年に八尾工場を設立、本社工場として金平糖生産に励んでいる。

販売形態は観光地の土産品店・物産店を主体に、金平糖を販売している。金平糖メーカーは国内に7、8社あり、同社は西日本では最大の出荷量を誇る。現在はミュージアム事業として、堺おやつスタジオ（コンペイトウ・プチ・ミュージアム）、八尾工場（コンペイトウミュージアムやお）、福岡市（コンペイトウミュージアム福岡）の3拠点で、金平糖作りの教室開催や様々なイベントを実施している。2003年から開催しているミュージアムには、幼稚園・小学生・中高生・老人会・一般企業・ライオンズクラブ等々、年間2万5千人超の人が訪れている。

2代目社長（現会長）の野村卓さん（71）はコンペイトウ王国の王様や、コンペイトウ博士に扮して「南蛮人」のコスプレでミュージアム来場者に応対、名物社長として一世を風靡した。ミュージアムの開催とあいまって、同社の金平糖人気が高まっている。

3代目社長の野村しおりさん（43）は会長に負けず劣らずの粋なら、ぜひとも金平糖作りに挑戦してみたい。

社長に就任、女性らしい目線で次々と新機軸のユニークな商品を開発している。

金平糖をモチーフしたピアスやゴムメーカーとコラボしたブレスレット、透明チューブに金平糖・マーブルを散りばめて夜光テープをデザインした商品が評判を呼んでいる。アルコール系や乾燥果実商品のアイデアもあり、国内外の食品・菓子の博覧会等をチェックして、トレンド調査にも熱心だ。自然派志向もあり、海外の顧客にも受け入れられている。

八尾工場では直径2mの大釜16台が稼働している。ミュージアムの金平糖作り体験教室では、直径90cmの釜が使われている。新しく考案したひとり釜工房（直径30cm）では、タブレット端末で操作指導する形式で秋以降に開催の予定とのこと。

金平糖は古い歴史を持つ楽しいお菓子だ。コロナ禍が収まったら、ぜひとも金平糖作りに挑戦してみたい。

（小川秀人）

友好都市 中国・河南省新郷市が柏原市へマスク4000枚寄贈

送られてきたマスクとお見舞いメッセージを持つ冨宅正浩柏原市長

柏原市（冨宅正浩市長）は、平成2年9月に、中国・河南省新郷市と友好都市提携に調印し、交流を行っている。

その新郷市から、5月14日、新郷市人民政府・王登喜市長からのお見舞いのメッセージとともに、4000枚のマスクの寄贈があった。

これは、4月3日に新郷市人民対外友好協会から柏原市宛てに届いたお見舞いのメールに、「新型コロナウイルス感染症の拡大防止に向けてできる限りの支援を提供したい」とあり、マスクの寄贈を柏原市が受けることとなった。

柏原市では、このマスクを市内の福祉施設等で活用することになり、大いに喜ばれている。

コロナ禍を乗り切るカフェバーの挑戦
生きるためのカレー
八尾市在住の小説家　嶋津亮太

八尾でBarを営んでいます。店の名はCafe Bar Donna。今年で11年目になります。コロナウイルスの影響で、2月に入ってから売り上げは伸び悩み、さらには緊急事態宣言を受け、休業が要請されました。10年間続けてきた店の最大のピンチです。

店をたたむことも考えました。このウイルスによる影響は終わりが見えません。世界中が頭を抱えていて、手も足も出ない状況です。「自粛」というのは、感染が広がらないための行為であって、問題を解決するための手段ではありません。ならば、飲食店は早々に閉めてしまって、別の方法で生きていった方が良いのではないかと。幸運なことに僕には「書く」という仕事がありました。生活のスケールは縮小するけれど、家族くらいは守ることができます。

「こわいです」

休業が施行される前日、店長の伊藤充が電話口で声を震わせながら言いました。彼は泣きながら、続けて何かを喋ろうとしていましたが、それが言葉になることはありませんでした。店を立ち上げたときから一緒に走り続けてきた仲間です。

彼の生活のことを考えました。彼が最も恐れていることは〝店がなくなること〟です。自分の居場所がなくなる。今までバーテンダーしかしてこなかった彼にとってそれは想像のつかない恐怖でした。こつこつとお客様と関係性を育みながら、自分の城を築いてきました。突然、外に出されたところで何をして良いのか分かりません。

そして、僕たちは飲食店としてコロナ不況と闘うことを決意しました。

休業が施行された日、この記事をインターネットのnoteに書きました。Barの営業をやめて、昼にテイクアウトのカレーを提供することに。カレーの名前はどうしよう。コンロの火を見つめながら、カレーがぐつぐつ泡を吹く音を聞きながら、そして、この文章を書きながら思いました。カクテルを作ったり、料理したりするなかで、言葉では理解できていても、今までは実感としてありませんでした。「今、ご目の前で起きていることは、生活を続けるための行為だ。そう、これは『生きるためのカレー』だ。それをそのまま名前にすればいい」。

決まったのはコロナ不況と闘うこととカレーを作ること、そして、カレーの名前だけ。他には何も準備が整っていません。肝心の炊飯器さえ店にはありませんでした。

すると記事を読んだfeBar Donnaがピンチと知り、サポートと共に「イラストや漫画でお手伝いできることがあれば何でも言ってください」と連絡をくれました。

「食べに行って絵を描きたかったのです」と道家の雪蓮さんから直筆の書が届きました。

猫野サラさんからはイラストをいただきました。サラさんはnoteで出会ったクリエイターです。CafeBar Donnaが、亮太くんの文章でこのカレーに対するみんなの気持ちが山ほどの数々の言葉やサポートは僕たちの背中を強く押してくれました。CafeBar Donnaは、もう僕たちだけの店ではないのかもしれません。

「あんたたちには愛と知恵がある。がんばるんやで」

先日金婚式を迎えたご夫婦からの言葉です。店をオープンしたときから可愛がってくださっている常連のお客様。

「生きるための力強さと、周囲の人のやさしさを字に込めて」

メッセージと共に書道家の雪蓮さんから直筆の書が届きました。

猫野サラさんからはイラストをいただきました。サラさんはnoteで出会ったクリエイターです。Caf